

経営学部3回生 男子学生

私は中国の暨南大学のサマースクールに参加しました。中国の広州という華南地方最大の都市だけあって、マンションやオフィスなどの高層ビルが立ち並び、町並みはまさに都会という感じでした。この2週間のプログラムにはイギリスやイタリア、エクアドル、チリ、スウェーデン、ベルギー、ポーランド、ロシアといった各国の学生が参加しており、国際色豊かな20人ほどのクラスでした。さらに大勢の中国の学生ボランティアがいました。本当に親切で、街を案内してくれたり、困っていることがあると手助けたりしてくれました。日本人は嫌いだななんていう人は全くなくて、なぜ国家間では仲があまり良くないのか不思議に思いました。広州の街の人もいい人ばかりで、自転車のチェーンが外れたときに一緒に手伝ってくれたり、道を尋ねたら親切に連れて行ってってくれたりといろいろな出来事がありました。また、私は日本人だと言ったら、自分も日本が好きだと言って、日本の漫画やアイドル、桜などに興味があるのだと気さくに話してくれた中国の方々もいました。宿泊は暨南大学の先生の家エクアドルの学生と一緒にホームステイさせていただき、現地の生活を体験することで、中国の日常や食文化を直接知ることができました。学校までは毎日自転車で片道15分ぐらいかけてエクアドルの学生と一緒に通いました。広州は人も自転車も自動車も非常に多く、日本と比べると道がきれいに整備されているわけではなかったもので、通学には少し苦労しました。中国の街の景色を見ながら友達と一緒に自転車で走るのは気持ちよかったです。キャンパスは広大で、キャンパス内には池や広場、病院、寮など様々な施設があり、教室棟も図書館も食堂もけた違いに大きく、そのスケールには圧倒されました。授業は中国語や中国文化、中国経済、中国外交、中国アート、カンフーなどがあり、授業は英語か中国語でした。授業はどれも面白かったのですが、内容を聞き取るのが私には少し難しかったです。他の学生はみんな何不自由なく英語ができて、母国語はもちろん中国語も、さらには他の外国語もできる学生が多かったです。日常の会話は基本的に英語なので、少なくとも英語を使いこなせるようになることは重要だと再認識しました。ディスカッションのときにはなかなか自分の言いたいことを英語で言うのは難しかったです。できるだけ自分から手を挙げて発言するようにしました。様々な国籍のメンバーがいることで、多様な意見や考え方があって非常に興味深かったです。逆に日本では当たり前だと思われる意見に興味を持ってってくれたりしました。そういった異なる考え方を持つ人々との交流を通じて、自分はどのような意見を持って、どのような貢献ができるのかというようなことを意識して考えるようになりました。あつという間の2週間でしたが、このサマースクールでの経験は素晴らしいものでした。中国とはどのような国なのか、文化の違う人々は物事をどう考えているのかを自分で実際に感じる事ができて勉強になりました。そして何より世界中にできた友人は私にとって大きな財産です。友人と過ごした楽しかった思い出を一生忘れることはありません。このよう機会を提供して下さった兵庫県立大学に感謝しています。ありがとうございました。

暨南大学サマースクールに参加して

経済学部 4 回生 女子学生

2週間のプログラムでしたが、中身は本当にぎっしりで様々な体験が出来ました。月曜日から金曜日までの平日は、基本的に朝8時から最長夕方6時まで本部でクラスがあり、中国語・文化の違い・歴史・書道・経済・カンフー・国際関係・伝統医学など、本当にユニークな授業を受けたことで、今まで中国について知らないことがこんなにあったんだと再認識しました。大学の敷地内には食堂やスーパー、図書館などがあり、昼休みや放課後に利用していました。また、大学の周りはたくさんのお店があり、必要なものは探せばほとんど見つかります。放課後に友だちやボランティアの子たちとショッピングをして、中国語で話して値段を交渉するととても貴重な経験になりました。平日や土日にはみんなで広州市内・深圳(しんせん)・ウォーターパーク・サーカス・カラオケなどに出かけ、歴史や文化に触れたり買い物をしたり、ナイトクルージングまでプログラムに含まれていて本当にびっくりしました！宿泊先はホームステイとホテルがあり私はホテルを選択したのですが、「広州華師粵海酒店」というとてもきれいなホテルで2週間プログラムに集中できる環境でした。クラスは22名で、日本人3名以外は世界各国(ロシア・イギリス・イタリア・南アフリカ・チリ・エクアドル・ベルギー・ポーランド・スウェーデン)から生徒さんが参加していたので、授業や現地の学生ボランティアさん・クラスメートとの会話は全て英語でした。私はこれまで英語で会話をした経験がほとんどなく、苦手な方だったので本当に苦戦しました。はじめは英語も中国語も話せず速く話されてしまうと本当に聞き取れないので、会話に加わることが出来ませんでした。英語の能力は重要とよく言われますが、世界の人と会話するためにはやはりある程度の英語能力は必要だと実感しました。海外の教育と日本の教育ではこうも英語能力に差がつくのかと思いました。しかしはじめこそ散々でしたが、やはり2週間もすると最初よりは耳が慣れ、同時に英語が話せるだけでもコミュニケーションがとれるわけではないとも感じました。海外の人たちは自国についてはもちろんのこと、他国の情勢にもきちんと興味とそれについての意見を持っていて、英語が苦手でも相手とコミュニケーションをとろうと努力していました。そのことが非常に印象的で、世界のとらえ方が少し変わりました。世界を舞台に日本人が存在し対応していくためには、言語と同時にどんなことにも興味と意見を持って、主体的に行動することが重要なんだと感じました。中学レベルの英語で必死に伝えようとすれば意味が伝わっていたので、自分の考えをしっかりと持つとともにそれを詳しく伝えるために言語を勉強していこうと思いました。また今回の目的でもあった人脈が出来て本当に良かったです。実際にその国の人に会いその国の話を聞くと、それまでのその国に対するイメージが変わり、漠然だった印象が「その人がいる国」へと変わっていくことを実感しました。今後も長くつながっていけるような仲間ができ、プログラムが終わってからも連絡を取り合っています。貴重な経験と貴重な人たちに出会えたこのプログラムに参加できて本当に感謝しています。今後の人生でこの経験を活かして頑張りたいと思います。

JNU SUMMER SCHOOL INTERNATIONAL 参加報告

経済学部 5 回生 女子学生

学校について

当初、初めての中国で不安だらけでしたが、参加学生には一人ずつきなん大学の学生ボランティアがパートナーとしてついてくれたので、携帯や学校までの行き方、両替の仕方などわからないことや困ったことは何でも相談できました。また、ボランティアとして参加していたきなん大学の学生は全員英語が流暢だったので、私自身中国語は全く話せなかったのですが、意思疎通には困りませんでした。

授業も英語で行われ、中国語だけでなく中国の外交関係やカンフー、習字、中国の伝統的な医療について、様々な面から中国について学ぶことができました。プログラムの最終日には全員で授業中に練習した中国語の歌と、カンフーの発表会を行い、お世話になったステイ先の方々やきなん大学の学生、先生の前で披露しました。

また、授業以外にもプログラムにはサーカスやテーマパーク、夜景クルーズといった娯楽も含まれており、広州を十分に楽しむことができました。

ホームステイについて

宿泊はホームステイかホテルかを選ぶことができました。私は滞在中にできるだけ中国語や現地の生活、文化にふれたかったのでホームステイを選びました。ホームステイははじめての経験でしたが、受け入れ先の方がとても優しく接してくださり、学校が終わり帰宅してからも、一緒に話したりテレビを見て、楽しい時間を過ごすことができました。朝食には、毎朝手作りの伝統的な中国料理を用意してくださり、一緒に食べながら料理の名前や中国語を教えてもらいました。ホームステイでは学校のカリキュラムにはのっていない、特別な時間を過ごすことができ、ステイ先の方には本当に感謝しています。

参加学生について

イギリス、エクアドル、チリ、ロシア、スウェーデン、イタリア、ドイツ、南アフリカなど様々な国から学生が集まっていました。ほとんどが中国語の初級者だったので、普段の会話は英語で行いました。そのため実際には日常生活の90パーセントは英語を使用しました。しかし、そのおかげで英語を使ってコミュニケーションをする事に対して少し自信を得ることができました。また、中国にいながら、会話を通じて参加国の情報や文化、言葉についても知ることができたので、自分の視野をさらに広げるきっかけになりました。また、中国についてどう感じるか、なぜ中国語を学んでいるのかなど同世代の国籍の異なる学生の考えを聞くことができたのも貴重な経験でした。授業後には、みんなで買い物やカラオケ、映画、観光に行き、毎日夜遅くまで遊んだことはいい思い出です。また、参加者の中には、英語・中国語・母国語を流暢に話す学生もおり、自分自身の英語力、中国語力に対してさらにモチベーションを高めることができました。

総括

このサマースクールでは、“中国語を学ぶ”というより今まで経験したことのない”グローバルな環境下で、中国というひとつの国を学び体験する”ことができました。

また、現在日中関係について注目されていますが、私が中国と聞いて思い出すのは、広州でお世話になったホームステイ先の方やきなん大学の学生です。そう思えるのも、親切に暖かくもてなして下さった方々のおかげだと思います。

私はサマースクールを通じて、今まで新聞やニュースでしか知らなかった中国に実際に行き、たくさんの人と出会い、多くの貴重な経験をすることができました。この経験を活かし、今後も中国語の学習に励み、何らかのかたちで中国と関わり、身近なところから日中交流に貢献していきたいです。